

いなかおか 6



1999 No.133

東京都世田谷区歯科医師会会報



東南アジア旅行の知的楽しみ方

「インド化」された国々へ 遺跡の旅-V

下馬部会 斎藤賢一

今回はインドネシアの遺跡についてお話ししたいと思います。インドネシアというとバリ島に旅行された方が多いと思います。バリ島は私も大好きなリゾート地で、ある旅行家の話ですが、良いリゾート地とは美しい自然と、親切な人々、はもちろんですが、そこに固有の宗教を持っているという3つの条件がそろっていることだと言っています。このバリ島はまさに美しい海と神々しい山、とても親切な人々、そして宗教として魅力的なヒンドゥー教を持っています。バリのヒンドゥー教はインドのヒンドゥー教に土着の宗教（アニミズム）が長い間に混ざりあって独特のバリヒンドゥー教という形のもので出来上がり、観光で必ず見るケチャ、パロン、レゴンなどの踊りやガムラン音楽など、また毎日どこかである祭りや結婚式、葬式などという形で旅行者が体験します。遺跡の旅-Iでお話ししましたがインドネシアは紀元前からインドの影響を受けており、現在はバリ島をのぞきイスラム教の国ですが、7～14世紀のヒンドゥー教や仏教の遺跡が色々残っています。まず飛行機でバリ島から1時間のジャワ島中部にある古都ジョグジャカルタに行きましょう。ジョグジャカルタはかつての王朝があった所でまわりには沢山の遺跡があります。一番有名なのはボロブドゥールの仏教遺跡ですが今回私たちはヒンドゥー教の遺跡を中心に見ていき、仏教遺跡はまたの機会にお話ししたいと思います。

プランバナン遺跡群はジョグジャカルタから車で30分のところにあります。この遺跡群の中にチャンディ・ロロジョンランのヒンドゥー寺院があります（インドネシアでは寺院のことをチャンディといいます）。とても広い敷地にシヴァ堂、ヴィシュヌ堂、ブラフマー堂の3堂



写-1 「チャンディ・ロロジョンラン」

が天高くそびえ、その前にそれぞれの神の乗り物である牛（ナンディ）、ガルダ、白鳥（ハンサ）を祀る堂が付属します。更にこの周囲を無数の小さな堂が取り囲んでいます（写-1）。遺跡の旅-IIIでお話ししましたラーマヤナの彫刻パネルがシヴァ堂とブラフマー堂の回廊にあります。中央で一段と高くそびえているシヴァ堂には中心に4つの部屋があり、そこにシヴァ像、グル像、ガネーシャ像、ドゥルガー像が安置されており、特にドゥルガー像の出来は素晴らしいものです（写-2）。



写-2 「ドゥルガー像」シヴァ堂

このドゥルガー像とこの寺院の名前になったロロジョンランの言い伝えがあります。『一

人の大男が美しいロロジョングラン姫の魅力のとりこになり、どうしてもいっしょになろうと思った。姫はこの大男を好きになれず、しかたなく「次の朝、一番鶏が鳴くまでに一千のチャンディを造ってくれたら、あなたの妻になりましょう」と答えてしまった。大男は「これはしめた」とばかり、月明かりの下、賢明になってチャンディを造り始めた。百、二百、……五百、九百九十、…夜明けが迫った。九百九十九、あと一つ。困り果てた姫は思いあまったあげく、大きな声を張り上げて「コケココー」。大男の願いは果たせなかったが、鶏の音が姫の仕業と知った大男は烈火のごとく怒り、姫に魔法をかけてその美しい姿を一瞬のうちに石に変えてしまった。その石がシヴァ堂にあるドゥルガー像だと言います。



写-3 「チャンディ・サンビサリ」

次にロロジョングランから車で5分の所にあるチャンディ・サンビサリに行きます（写-3）。この寺院は、火山灰の畑を耕していた農夫によって地中から発見され、地下5mの所に埋もれていました。従って保存状態はとても良く、シヴァ神を祀ってあるので寺院の壁にグル、ガネーシャ、ドゥルガー（グルはシヴァ自身、ガネーシャは子、ドゥルガーは妻、そして乗り物のナンディ、これをシヴァファミリーと言う）が彫刻され、祠堂内部にはリングが安置されています。インドネシアのヒンドゥー寺院はほとんどシヴァ寺院ですので壁にシヴァファミリーが彫刻がされ、内部にリングが安置されています。

今度は少し遠い所がありますが現在残っている一番古いヒンドゥー遺跡を訪れたいと思います。一つはジョグジャカルタから北西に130km



写-4 「ディエン高原」

のプラウ山の火口原にあるディエン高原の遺跡で、2000mの所にあるためとても涼しく、いつも霧がかかりディエン（神々の座）という名のおり聖地と言う感じがします（写-4）。この高原の中央に7世紀から8世紀の5つのチャンディが並んで建っており、その周囲に3つのチャンディが散在しています。各のチャンディには叙事詩「マハーバーラタ」の主人公の名前がそれぞれ付けられています（写-5）。



写-5 「ディエン遺跡群」

これらのチャンディはシンプルで小さく南インドの初期の寺院に似ています。その中でチャンディ・ビーマは特異な建物で屋根に人面が沢山彫刻されています（写-6）。インドにはチャイテヤ窓といって人や神、動物の顔が彫刻されたものがありますがこのように沢山の顔が彫刻された建物はありません。



写-6 「チャンディ・ビーマ」ディエン

遺跡のまわりをすこし散歩しましょう。これら遺跡の周囲の至る所で温泉が噴きだし、硫黄の臭いが漂っており、なんと温泉卵も売っています。また噴火によってできたエメラルドグリーン美しい湖もあり日本の火山地帯によく似ています。こんな所にも天秤棒をかついだおばさんが、あったかいスープを売りに来ます。鳥肉や肉団子のスープにご飯をいれて食べるのですが、これがとてもおいしいのです。



写-7 「ゴドン・ソング遺跡群」

もう一つ古いヒンドゥー遺跡がジョグジャカルタから北へ100 kmほど行った聖山ウンガラ山の火口原南側2000mの所にあります。ゴドン・ソング（9つの建物）遺跡と言う名のとおり巡礼の通った細い山道が9つのチャンディを巡っていたのですが、今は復元修理を終わった5つのグループが残っています（写-7）。山の稜線の彼方には点々とチャンディのシルエットが浮かび、硫黄泉の湧いている谷を抜け、林を通過して南側に行くとジャワの全景観が雄大なパノラマを展開しています。本当に美しいところでお弁当を持ってハイキングしながら巡礼の道を歩くのは最高です（写-8）。



写-8 「ゴドン・ソング」

ウンガラ山の麓のあたりは、ジャワコーヒーの本場でコーヒー農園が沢山あり、おいしいコーヒーが飲めます。

この一番古い2つの遺跡群がなぜこのような山の中に造られたのでしょうか、これより後の寺院はプランバナン遺跡群のように平野にあるのです。おそらく山間地にお墓を造ったりするインドネシア古来の祖先崇拜の習俗が外来のヒンドゥー文化と混じりあって、初期にはこのような場所に寺院を建立して巡礼したものと思われる。以前私は東南アジアの寺院のルーツを求めてインドを旅しました。そして南インドのマドラスから1時間の所にある7世紀のパラヴァ朝の外港であったマハバリープラムでこれらインドネシア初期の寺院とよく似た寺院を見ました（写-9）。



写-9 「バンチャ・ラタ」マハバリープラム

日本では丁度、大化改新のころでこのマハバリープラムの海岸からインド洋を航海して、インドシナやインドネシアにわたった1400年前の人たちのことを思うととても感慨深いものがあり、時間を忘れて海を眺めていました。また中国の玄奘三蔵も七世紀の中頃にここから車で1時間のパラヴァ朝の首都であったカンチープラムを訪れているので当然ここにも寄ったと思われる。

さてバリ島に戻りましょう。バリ島にも11世紀の遺跡が2つ残っています。1つは観光で必ず訪れるベドゥルにある「ゴア・ガジャ」でとても美しい沐浴場とその隣にある大きな鬼面の入り口を持った洞窟があります（写-10）。

なにか遊園地のアトラクションの入り口みたいですが中に重要な礼拝物が祀られていたか、あるいは僧の修行の場所だったのかもしれませんが。



写-10「ゴア・ガジャ」バリ

もう一つはタンバクシリンにある「グヌン・カウイ」と言う11世紀にインドネシアをおさめていたアイルランガ王の弟とその一族のお墓で、パクリサン川に沿った崖を祠堂の形に刻んで造られたもので、川の両側に刻まれた9つの墓と僧院からなっています（写-11）。



写-11「グヌン・カウイ」バリ

ここは谷底にあるため参道から急な階段を降ります。とても美しい所ですが風が全く通らないので、サウナ状態です。おまけに帰りは急な階段を登らなければならないので、汗だくになってしまいます。そこで参道の入り口にあるお店でホットオレンジジュースを飲みます。これは現地の人に教えてもらった飲み物で、オレンジを絞り、たっぷりのお砂糖と熱湯を注ぎます。コップが熱く持てないのをふうふうしながら飲むと汗がどくどく出てきます。やはり熱いとき

には熱いものが良いようです。インドでも北では熱い紅茶を、南では熱いコーヒーを何杯も飲みます。バリ島の食べ物は蟹玉やニラレバ、野菜炒めなど中華がどのお店にもあり、とてもおいしいので私たちにも安心です。バリ島では是非食べていただきたいのが子豚の丸焼きです。これはお祭りや結婚式などおめでたい席では必ず食べますので機会があったら是非食べてください。特に皮の部分は最高で取り合いです。これを食べたら気分は完全にバリ人です。



写-12「お祭り」バリ

バリ人は自分たちが観光で暮らしていることをよく理解しており、古いものと新しいものを上手く使い分けています。また自分たちの本当の生活と、観光用の生活も使い分けています。ぜひバリへ行ったら彼らの本当の生活を覗いてください。バリでは生まれてから死ぬまでとても沢山の通過儀礼があり、今でもこの伝統を守り自然の中でそして自分たちのリズムで生活しています。私達が近代化とひきかえに、なくしてしまったものが見つかるかもしれません。今回はインドについてお話ししたいと思います。